

報道関係各位
プレスリリース

2025年1月吉日
日本ゴルフジャーナリスト協会
会長 小川 朗

日本ゴルフジャーナリスト協会が選出する JGJA 大賞
2024 年度は「帯広国際カントリークラブ」に決定しました



日本ゴルフジャーナリスト協会（会長：小川 朗）は、2024 年度 JGJA 大賞に『帯広国際カントリークラブ』（支配人：柴田 和則）を選出しました。

また、来る 1 月 28 日（火）、江東区文化センター（所在：東京都江東区東陽）で開催する、「2025 年 JGJA 新年会」において表彰式を行います。

■JGJA 大賞表彰式 および 2025 年 JGJA 新年会

【日 時】2025 年 1 月 28 日（火）19 時より（開場：18 時 30 分）

【会 場】江東区文化センター2F サブ・レクホール（URL：<https://www.kcf.or.jp/koto/>）

〒135-0016 東京都江東区東陽 4-11-3

TEL：03-3644-8111

〈アクセス〉東京メトロ東西線「東陽町」駅 1 番出口より徒歩 5 分（[Google マップ](#)）

【参加費】5,000 円

【主 催】日本ゴルフジャーナリスト協会（URL：<https://jgia.jp/>）▷詳細案内は [こちら](#) です

■帯広国際カントリークラブ

【選考理由】

帯広国際カントリークラブは、地元振興のために「道東オープンゴルフ選手権」を 50 年に渡り 50 回、自社運営で開催を継続してきました。地元振興という目的を貫き、大きなスポンサーに依存せず、自社での開催を継続し続けた姿勢は、トーナメントとは何か、そこで大切にすべきことは何か、を私たちに教えてくれます。経済状況に振り回され、依存体質から抜け出せないツアーが見失った本質がここにはある、と言い換えてもいいでしょう。そのことを高く評価し、2024 年 JGJA 大賞に決定いたしました。

【表彰式にて】

1月28日（火）、JGJA 新年会にて執り行う表彰式では、帯広国際カントリークラブ支配人の柴田和則様と、道東オープンゴルフ選手権実行委員長の藤原治様にご出席いただき、経験談や苦労話、開催の意義等に関してお話を伺います。

【概要】

運営会社：株式会社帯広国際

代表者：島田 哲男

所在地：〒089-0563 北海道中川郡幕別町字千住 427

URL：<https://obihirokokusai.com/>

■JGJA 大賞

JGJA 大賞とは、「ゴルフを通じた社会貢献やゴルフの振興などに尽力した方を、独自の視点で選び、今後のさらなる活躍を応援する」という目的で、2014年度から実施し、2024年度で11回目となります。

同賞は、2023年度まではJGJA 会員による投票のみで選出していましたが、2024年度からは、多岐にわたる分野から、よりの確な個人や団体を選出しようという目的で選出方法を改定。

会員投票の獲得票数上位5位（タイ含む）の中から、「社会貢献度」、「ゴルフ振興への尽力度」、「独自の視点度」、そして「今後への期待度」の4つの視点から理事が評価し、選出することになりました。

【JGJA 大賞歴代受賞者】

2024年で11回目となるJGJA 大賞の歴代受賞者は次の通りです。

●第1回（2014年度） 田村尚之氏

サラリーマンプロとして目覚ましい活躍をみせたことを評価。

●第2回（2015年度） 中井学氏

インストラクターでありながら、敢えてJPGAのトーナメントプロテストに挑戦。見事2位となりツアー資格を取得した功績を評価。

●第3回（2016年度） 青山加織氏

今年4月の熊本地震で本人も自宅で被災。その後、被災地のために自ら軽トラックを運転して物資の供給を行うなど被災者の為に活動し、プロゴルファーという仕事を通じて実情を世間に知らせ、支援を呼びかけると共に、それを続けている彼女の勇気と行動力を評価。

●第4回（2017年度） 表純子氏

昨年のミヤギテレビ杯ダンロップ女子オープンで記録は止まってしまったが、年間で35試合を越えるトーナメントが開催されているツアーの中、ツアー最多連続出場「241試合」を達成した功績を評価。

PRESS RELEASE

●第5回（2018年度） タイガー・ウッズ氏

昨年9月のUSPGA ツアー「ツアー選手権 by コカ・コーラ」で2013年以来となる見事な復活優勝を果たしたタイガー・ウッズ選手を評価。

●第6回（2019年度） 三觜喜一氏

YouTubeの「MITSUHASHI TV」のチャンネル登録者数が20.5万人に達し、2019年大ブレイクを果たしたことを評価。

●第7回（2020年度） アース製薬株式会社／会長 大塚達也氏

コロナ禍で2020年女子ツアーのトーナメントが開幕から中止の相次ぐ中、6月に同社が主催する「アース・モンダミンカップ」を無観客とした上で徹底した感染対策を行って開催に踏み切り、その後の他の大会開催に勇気を与えるとともに、テレビ放映をせずに全日インターネット中継を実施する新しい試みを行い、新たなゴルフファンを獲得するなど成功を収めた同社の決断を評価。

●第8回（2021年度） 松山英樹氏

日本人初のマスターズ制覇。

●第9回（2022年度） ガレス・ジョーンズ氏

2015年に日本ゴルフ協会の招きで来日、ナショナルチームのヘッドコーチに就任した。以来、10代の選手を中心としたナショナルチームの選手の教育、育成に尽力されて、『教え子』の中から畑岡奈紗、金谷拓実、中島啓太らプロツアーでのアマチュア優勝者を輩出。2022年には蟬川泰果が日本オープンで95年ぶりにアマチュア優勝を果たした。また、ナショナルチーム出身者の活躍に刺激された多くのジュニアゴルファーのレベルアップにも寄与し、日本のゴルフ界、特に将来を担う人材に影響を与えたことを評価。

●第10回（2023年度） 久常涼氏

QTから挑戦したDPツアーのフランス・オープンで、日本選手3人目のDPツアー優勝を果たすと同時に、日本選手として初めてサー・ヘンリー・コットン新人賞を受賞。ポイントランキングで2024年米ツアーの出場権を獲得し、欧州ツアーを経由して米ツアー出場権を手にした日本で最初の選手になった。海外を目指すゴルファーの励みとなり、今後の道しるべとなる快挙だった。

■「2025年JGJA新年会」のご取材について

取材にお越しいただく際は、事前に下記メールアドレスまで事前にご連絡いただき、当日は受付にて「社名・媒体名・お名前・ご連絡先」をご記入ください。（申し込み締め切り：1月25日）

【本件に関するお問い合わせ先】

日本ゴルフジャーナリスト協会／事務局：林 智子
TEL：090-4385-1494 / E-mail：info@jgja.jp